

5 本時の学習指導

(1) 目標

人にはさまざまな感情が存在していること、人の「気持ち」とは言葉で言い表せない複雑なものであることを学び、考えることができる。(思考・判断・表現)

(2) 『本時』における学びをたのしむ生徒の姿について

さまざまな感情があることは自然なこと。それに自分で気付いて適切に行動することが大切であることを知り、これまでに学んだ「観るスキル」を使うことで、「言葉」と「身体の変化」から自分や人の気持ちに気付き、気持ちの動きを捉えようとする姿を目指す。

(3) 本時の学習展開

生徒が思考し続けるための 教師の意図的な働きかけ 手だて②	予想する生徒の姿	手だての有効性はどうであったか (生徒の姿の実際・改善点など)
1 気持ちに気付くスキルの説明をする。 「言葉」と「身体の変化」から気持ちに気付くことができるということを知るために、気持ちに気付くスキルを黒板に提示し、説明する。	気持ちを表す言葉はたくさんありそうだね。気持ちによって身体も変化するんだね。	
2 よい例、悪い例を実演して手本を見せる。 自分が主人公の立場だったら、どんな気持ちかを考えさせるために、イラストの場面を教師が演じる。	メンバーに選ばれてうれしい。いい記録を出せるようにがんばるぞ。 「えっ、どうして」友達の記録を素直に喜べない。	
3 気持ちに気付くスキルの練習をする。 その感情のとき、どのような身体の変化があるかを考えさせるために、気持ちを表す言葉を考え、4つの状態(喜怒哀楽)に分類させる。	イライラすると落ち着きがなくなって、眠れなくなる。 わくわくすると、興奮するし、笑顔になる。	
成長や課題を認識し、次の学びにつなげる 「振り返り」の活用 手だて③	①分かったこと すごく複雑な感情があることにも気づいた。自分は「イライラ」を出しやすいタイプだと思った。 今までイライラして物や人に当たっていたことがあったけど、これからは自分の気持ちに気付いて落ち着きたい。	
4 振り返りを書く。 今日のゴールをもう一度提示し、自分も他者も複雑な感情をもっていることを確認するために、振り返りの視点を【①分かったこと】に設定する。		

(4) 評価

人にはさまざまな感情が存在していること、人の「気持ち」とは言葉で言い表せない複雑なものであることを学び、考えることができたか。話し合いの様子やワークシートの記述により判断する。